

ラムに、「寝たきり」少ないわけ——高輪福祉と小学校」をこわごわ書きました。なぜ、こわごわだったかという、当時、「寝たきり」は「寝かせきり」だ、などと言っている専門家はいなかったからです。おまけに、当の私はというと、この分野では新米中の新米だったからです。

案の定、高名な教授やお医者さんから猛烈な反発を受けました。「どこかに寝たきり老人が隠されているのにな」 「寝たきりになるような年寄りには適当に死なせているのではないか」

でも、お年寄り本位の介護をしている特別養護老人ホームやリハビリ専門医からは声援の手紙が届きました。

次に掲げた表は、左ページが、八五年当時の日本とデンマークの比較です。絶望的なほどの違いでした。

社説で、コラムで、連載で、本で、シンポジウムで、この違いを手を換え品を換え訴え続けました。

そうこうしているうちに、「寝たきりは寝かせきり」という訴えは次第に市民権を得てゆきました。学者の論文

に、他の新聞の連載記事に、イベントのタイトルに、「寝かせきり」という言葉を見かけるようになりました。

日本も国が、市町村が、変わりはじめた!	1989年初夏～
1989年 厚生省に介護対策検討会 寝かせきりにしない介護、市町村 中心、社会保険方式の費用調達 の可能性などを提言	
1990年 コールプラン「寝たきり老人ゼロ 作戦」ヘルパー10万人計画開始	
1992年 厚生省「脱お役所仕事の勧め」	
1994年 高齢者介護自立支援研究会報告	
1995年 24時間巡回型モデル事業	
1996年 老人保健福祉審議会最終報告 21世紀福祉ビジョンで新コール ド	
1997年 公的介護保険法成立2000年実施	
1993年 厚生・消費省福祉用具法施行	
1989年 知的障害にグループホーム制度	
1990年 江戸川区の住宅改修補助事業	
1993年 建設省長寿社会対応設計指針案	
1995年 特養ホームの居室1人10.7㎡に	
1996年 純栄グループホームモデル事業	
1989年 デイサービス・デイケア1万計画	
1992年 厚生省移送サービスに補助開始	
大阪府福祉のまちづくり条例	
1994年 建設省が「ヘルパー」法	
生活福祉空間づくり大綱	
2000年 運輸省が交通バリアフリー法	
1992年 老人訪問看護ステーション制度	
1988年 老人保健施設登録 1床8㎡	
1990年 介護力強化病院登録 1床4.3㎡	
1992年 療養型病床群登録 1床6.4㎡	
2001年 身体拘束ゼロへの手引き	
「福祉は投資・雇用創出」との議員も	
1992年 老人保健福祉計画マニュアル 「家族の介護力に過大な期待を かけぬよう十分留意されたい」	
1989年 高齢者医療福祉推進10か年戦略	
1990年 老人福祉法改正で市町村が主役に ・出前する江戸川区、鶴岡町の未来工房 ・「前例がないからやる」百長さん登場	
在宅を支える医師や看護師、口からの食事 を大切にする歯科医、歯科衛生士、栄養士 笑顔とおしゃべりの特養ホームや在宅介護現場	

1982年 高齢化社会をよくする女性の会
1996年 介護の社会化—万人市民委員会
1997年 先進市長が福祉自治体ユニット

1985年よりキャンペーン開始。まず、違いを報道	デンマークでは	ところが、わが日本では
寝たきり老人という役所用語がない (ノミムある生活→リハビリ効果)	日本総算で50万人のホームヘルパー 24時間体制で、生活の節目に 所得に関係なく、当然の権利 ホームヘルパーの推定も総額も高く 休職も希望もあり、尊敬される仕事 市町村職員だが、細やかな心くほり	ホームヘルパー2万5000人 週に数回、訪問がけられる 低所得世帯が対象、助と助う人も ホームヘルパーの給料は安く 男性が寄りつかぬ仕事 公務員ゆえの役所仕事
介護・介護	補助器具センターで、自具や補助器 具をタイピングよく貸し出し 器具の企画や評価に、障害者が参画 取しい時、も押しよよいSOSヘル プ	補助器具のハードもソフトも低水準 →寝たきり製造ベッド・体をダメに する車いすなどが横行 命にかかわる時だけ得ずSOSヘル プ
補助器具	建築基準法でバリアフリー義務づけ 「高齢者に親切な住宅」建設法	つがね取れば、煎えなければよいと いう建築基準法→税差だらけの家
住宅と施設	町ばかりに個室特養ホーム(プライエイム) 限りなく自宅に近い雰囲気	役員費は親居の特養ホーム。それも 足りず、1床4.3㎡の老人病院へ
食事と外出	365日の飲食サービス 送迎サービスで買い物や音楽会へ 高齢者・障害者がおしゃべりして街に (背景にバリアフリー法) ونسデッパバスD.A.B試乗中 小学校区に1つのデイセンター	ボランティアが月1回のお食事会 「在宅」という名の密室 外出できない高齢者・障害者 (背景に投資だらけの店やビル) バリアフリーバスとバリアフリー車 外出先もなく自宅に閉じこもり
医療と連携	名探偵みたいな市町村の訪問看護師 入院した時からの退院計画 家庭とという名の専門医が診	医師の指示でしか動けぬ看護師 退院してから役所に申請 社説は「奇特な医師者様」だけ
行政の哲学	泊つたら退院、老人病院はない 「自立支援で社会の支出は減る」 白戸決定権、人生の継続性の尊重の ための在宅事業、あわせて財政対策 自助のための借しめない支援 年次計画をたてて、企業家精神で 現場に権限と責任—無駄が減り制 役所が、自宅や病院へ向く 「前例破り」を奨励する制度	病院でデューブ食・縛り・薬づけ 「福祉充実が経済の足を引っ張る」 家族とボランティアの無給労働をアテ にした「日本型福祉」と在宅推進 「自給努力」と「個性」を奨励 単年度主義で行き当たりばったり なにも中央にお伺いをたてて… 市民を役所の窓口と呼びつける 「前例がないからダメ」が口癖
そして…	医療費の伸びにストップ おしゃべりと笑顔と誇りと美しい晴 4世代同居で愛情ゆたかに	社会的入院でとめどなく医療費増大 入札業者はすずれウツロはよなざし 老夫の老費殺し・老人自殺・人生を捨 てたコメ—家族の愛はめっちゃちや

そして、右ページの表が、八九年の介護対策検討会設置を皮切りに日本の各地で始まったこと、変わったこと、変わったこと、変わらぬこと、変わらぬこと、そんな希望がわいてきます。

●朝日新聞論説委員室十 大熊由紀子

医療社が変わる

ぶどう社

東京都千代田区神田小川町3-5-4
お茶の水S.C.ハウス905
〒100-0005 (32955)

定価 1835円 (5%税込)